

よりよい人間関係を育む指導援助の在り方に関する研究（第1年次）

～対話的な学びを充実させる学級集団づくりを通して～

福島県教育センター 教育相談チーム 指導主事 阿部 光

## 1 研究の趣旨

ふくしまの「授業スタンダード」が作成された背景である新学習指導要領では、対話的な学びを充実させる学級集団づくりが大切であり、安心して対話できるような教員と児童生徒、児童生徒相互のよりよい人間関係づくりが必要であるとされている。また、集団へのガイダンスと個へのカウンセリングの機能を充実させることにより、児童生徒の発達を支援することの重要性が新たに示された。

そこで、児童生徒の学びや生活の基盤となる学級集団づくりに対話の視点を踏まえ、教員の個や集団への効果的な指導援助の在り方を探るために、以下の仮説を設定し、本主題に迫った。

対話の視点を踏まえた、個や集団へのかかわりを通じた学級集団づくりの校内研修の充実を図れば、教員の「よりよい人間関係を育む力」が向上するであろう。

## 2 研究の概要

### (1) 教員の実態把握

教員に高めたい「よりよい人間関係を育む力」をカウンセリングとガイダンスの点から分類・規定した。これを基に作成した「よりよい集団づくりチェックシート」で実態を調査・把握する。

### (2) 児童の実態把握

「hyper-QU」の結果（学校生活意欲や学級満足度、ソーシャルスキル定着度）から、個・集団・個と集団の関係性を把握する。

### (3) 校内研修の実施

「よりよい人間関係を育む力」の向上を図るために、個へのかかわりを「カウンセリング力」<sup>※1</sup>、集団へのかかわりを「ガイダンス力」<sup>※2</sup>とし、これらの要素を基にバランスよく校内研修を行う。

※1 a 把握（個々人を理解する力）、b 問題解決<対応>（一人一人が抱える課題を解決しようとする力）、c 予防開発<指導>（対人関係スキルを獲得させたり、自己肯定感を高めさせたりする力）の3つの要素からなる。

※2 d 自尊尊重（互いに認め合うことができるようにする力）、e 集団維持（ひとつの集団として、まとまりを持たせることができるようにする力）、f 協力協働（互いに協力することができるようにする力）の3つの要素からなる。

### (4) コアチームによる校内研修のコーディネート

研究協力校の教員と教育相談チーム員でコアチームを作る。校内研修の質と満足度を高めること、研修成果を実践に生かすことなどを調整・促進するように働きかける。

## 3 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果 ※（ ）の中は関連する要素

① 教育相談的な手法を児童の実態に合わせて取り入れ、集団づくりに生かしていこうとする意識が高まった。（c 予防開発 e 集団維持）

② 各学級集団の実態をより多角的・多面的に理解することができた。（a 把握 e 集団維持）

③ 人間関係を広げるために、低・中・高学年ブロックや学校全体としての取組を学級の枠を超えて考えることができた。（f 協力協働）

④ 対話的な活動を意図的に取り入れた演習を通して、集団の中にルールが確立していくことや人間関係が深まることを実感できた。（b 問題解決 c 予防開発 d 自尊尊重）

### (2) 今後の課題

① 「よりよい人間関係を育む力」のさらなる向上のためには、カウンセリング力やガイダンス力の構成要素をバランスよく高められるように、意図的・継続的に支援していく必要がある。

② 教員が日常的に行っている指導援助を、カウンセリング力やガイダンス力の点から意識化できるように、支援していく必要がある。